

穂数の8~9割を確保したら速やかに中干し開始！
遅くとも6月末までには中干しに開始！
葉色の濃い圃場はしっかり中干し！

1 現在の生育状況

作柄診断圃では、平年と比べて草丈は並み~長い、茎数はやや少ない~多い、葉数はやや少ない~やや多い、葉色は並み~濃い、となっており、特に茎数の差が大きいです(下表)。

管内の圃場でも、苗質の良し悪しや移植後の浅水管理・水交換の実施程度により、茎数の圃場間差が見られます。茎数の少ない圃場では水深が深い傾向があります。

一方、全体的に葉色が濃い傾向です。また、土壌中残存アンモニア態窒素は低下してきていますが、依然として平年よりやや多いです(下図)。穂肥時の茎数・葉色が適正となるように、中干しによりしっかり生育を調節しましょう。

【作柄診断圃の生育 6/19 現在】

品種 移植/直播	場所	年次	移植/播種	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
はえぬき 移植	鶴岡市 矢馳	本年	5月16日	33.5	473	8.0	38.9
		平年	5月16日	33.3	515	8.2	38.3
		平年比	±0	101%	92%	-0.2	0.6
つや姫 移植	鶴岡市 上清水	本年	5月12日	37.4	441	8.1	41.1
		平年	5月13日	34.1	447	8.1	39.9
		平年比	-1	110%	99%	0.0	1.2
雪若丸 移植	鶴岡市 長沼	本年	5月12日	33.2	583	8.4	46.7
		平年	5月13日	30.4	523	8.2	44.2
		平年比	-1	109%	111%	0.2	2.5
はえぬき 鉄コ直播	庄内町 堀野	本年	4月27日	33.8	550	7.7	41.9
		平年	5月1日	26.0	388	6.8	36.1
		平年比	-4	130%	142%	0.9	5.8

mg/100g 乾土

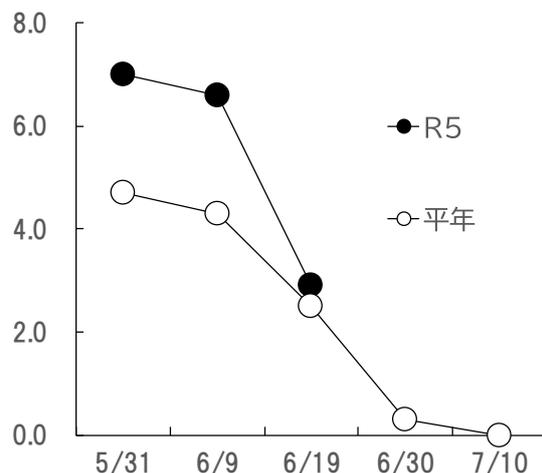


図 土壌中残存アンモニア態窒素 (水田農業研究所 標準施肥「はえぬき」)

【東北地方1カ月予報(6/17~7/16) 仙台管区气象台 6/15 発表】

気温	10	20	70
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

低い(少ない)確率

平年並の確率

高い(多い)確率

2 当面の技術対策:中干し・作溝による生育調節

(1)中干し・作溝のねらい

- ①土壌中に酸素を供給・土壌中の有害物質を除去・・・根量増加・根の活力向上、登熟向上
- ②土壌中窒素の発現を一時的に抑制・・・無効分げつを抑制、幼穂形成期の稲体窒素量が適正化
- ③地耐力が向上・・・倒伏防止、出穂後30日以降の落水でもコンバイン作業 OK。
- ④作溝により中干しの効果を高めることができ、以降の灌水・排水も効率的に行えます。

(2)中干し開始のタイミング

目標茎数の80～90%を確保したら速やかに中干しを始めましょう。

品種	目標茎数(穂数)			目標茎数の80～90%	
	㎡当たり (本)	坪70株植 坪60株植		坪70株植 (本/株)	坪60株植 (本/株)
		(本/株)	(本/株)		
はえぬき	540	25	30	20～23	24～27
雪若丸	580	27	32	22～24	26～29
つや姫	440	21	24	17～19	19～22
ひとめぼれ	500	24	27	19～22	22～24

数えてみると
意外にある!

(3)中干しの程度

地力や生育量(=茎数×葉色)に応じて決めます

地力:低～並 生育量:並～良	7～10日間を目安に小ヒビが入る程度(写真左)
地力:高 生育量:過多	有効茎確保前でも早めに実施。11～15日間を目安にやや強めの中干し(写真右)



(4)中干し遅れのデメリット

茎数が十分に確保できていないからといって7月まで中干し開始を遅らせると、かえって収量や品質が低下するリスクがあります。登熟期間の天候が不順になると、さらにダメージが大きくなるおそれがあります。

- ①穂肥時期に葉色が濃い(幼穂形成期の稲体窒素濃度が高い)・・・1穂粒数増加・・・玄米千粒重低下、玄米品質低下(胴割粒、白未熟粒など)、玄米タンパク質含有率増加
- ②無効分げつ多発・・・稲体内蓄積デンプンの減少・・・早い凋落、玄米千粒重低下、くず米増加

穂肥の時に悩まないように、遅くとも6月末までには中干しを始めましょう。

熱中症予防と農作業事故防止のため、定期的に水分と休憩を取りましょう